



♡ 犬猫殺処分とは

ペットブームのあおりで犬の知識もなく、ただ可愛いから、みんな飼ってるから、安かったからと安易に飼い、人間の身勝手な理由や経済的理由から簡単に命を捨て保健所に連れて行き犬や猫が殺処分されていることを知ったのが平成18年。

その当時、保健所や動物愛護センターでは、年間341,036頭もの犬猫が収容され、そのうち約8割が殺処分されていました。

しかも福岡県は平成17年18年と犬猫殺処分数が2年連続ワースト1



♡ 平成25年度9月より動物愛護法が変わり終生飼養が義務になりました



犬・猫が捨てられ、殺処分されることを問題と捉え、動物を飼う一般の方たちのモラルを向上させることが最も重要なことであり根源であると思っています。

まだまだ不幸な終わりを迎えてしまう動物たちは多いのですが、年々保健所で殺処分されているペットの数は減ってきています。

NHKニュース

「飼いはじめたら、最後まで適正に飼うこと（終生飼養）」
「ペットがその命を終えるまで、適正に飼う」という
その自信と覚悟がなければ「飼わない」こともペットへの愛情です

・ ペットを捨てる理由

- ・ 忙しくて面倒見れないから
- ・ 仕事がなくなったから
- ・ 子どもが飽きたから
- ・ 離婚するから
- ・ ペット不可のマンションに引っ越すから
- ・ 子どもがアレルギーだから
- ・ 飼い主が高齢のため
- ・ 老犬になり介護が必要になったから
- ・ しつけができないから
- ・ なつかないから
- ・ 吠えるから
- ・ 家族を噛んだから
- ・ 家の中を汚すから
- ・ いぬが病気になったから
- ・ お手入れができない 等



・ 犬が捨てられない社会に変える

犬が捨てられてしまうのは、犬に関する知識のない方や、単に可愛いからと、自分のライフスタイルを考えずに安易に衝動飼いでしまい、十分にお世話ができず飼育放棄し、捨てるのが原因です。

犬を飼うためには、命をあずかる責任と、社会に対する責任の自覚を高める必要があります。

・ 犬の命をあずかる責任とは

飼い主が愛情を持って犬の健康と安全に気を配り、犬種にあった快適な環境を整える

・ 社会に対する責任とは

犬が周りの人に迷惑をかけないように社会のルールやマナーを守る

・ 犬猫殺処分を減らしたい

大好きな犬が殺されている現状をどうにかしたい。犬猫殺処分数を減らしたいと思い、任意ボランティア団体を立ち上げ、毎年、動物愛護週間に小倉城の下や小倉駅前犬猫殺処分問題の現状を知らせ、これから飼おうと思っている方にふれあいしつけ教室を行っています。活動の幅を広げるには責任の所在を明確にしないと行けなくなった為、特定非営利活動法人を設立することになりました。

今、現在も多くの犬や猫が飼育放棄され、自治体の保健所や動物愛護センターに持ち込まれて殺されています。

犬や猫などのペットを飼うためには、飼い主としての覚悟と責任、努力が求められます。

これからペットを飼おうとしている友達がいたら、「途中でペットを見捨てず最後までペットの命をあずかり最後まできちんと飼える自信と覚悟はありますか？」と訊ねてください。

飼い始めたその日から、ペットの命は飼い主にゆだねられているのです。

